

# 環境経営レポート

2022年度(R4年6月～R5年5月)

エコアクション21

有限会社 塚本興業

作成日：令和5年10月1日

作成者：後藤康平

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS



## 目次

<u>環境方針</u> .....	- 1 -
<u>実施体制</u> .....	- 2 -
<u>組織の概要</u> .....	- 3 -
<u>事業内容</u> .....	- 4 -
<u>敷地及び床面積</u> .....	- 5 -
<u>許可内容</u> .....	- 6 -
<u>処理施設概要</u> .....	- 7 -
<u>産業廃棄物処理フロー図</u> .....	- 8 -
<u>EA21 推進委員会</u> .....	- 9 -
<u>環境への負荷の状況</u> .....	- 10 -
<u>新中長期環境目標</u> .....	- 11 -
<u>環境活動計画&amp;進捗評価</u> .....	- 12 -
<u>環境目標と実績評価</u> .....	- 13~17 -
<u>分析・評価・次年度への課題（温室効果ガス排出量・化石燃料の使用量）</u> .....	- 13 -
<u>分析・評価・次年度への課題（化石燃料の使用量・購入電力）</u> .....	- 14~15 -
<u>分析・評価・次年度への課題（自社オフィス廃棄物排出量・上水使用量）</u> .....	- 16 -
<u>分析・評価・次年度への課題（産業廃棄物リサイクル率・グリーン購入(事務用品)）</u> .....	- 17 -
<u>環境関連法規等の取りまとめ</u> .....	- 18 -
<u>代表者による評価と見直し---環境システム全般について評価と見直し---</u> .....	- 19~20-

## 【基本理念】

有限会社塚本興業は、廃棄物の処理業務を行う上で、より快適な地域環境を常に創造しつつ地域に暮らす人々の身近な生活環境を守り、次世代へ継承することを企業の使命とし社員一人一人が地域環境の保全に心がけ 安全・迅速・的確にサービスの提供を行い、創意工夫と行動力をもって循環型社会の構築へ貢献する企業活動を推進します。

## 【環境方針】

1. 地球環境の保護のため、省資源・省エネルギーの推進をします
  - ▼水資源の節約に努めます（雨水を有効利用する）
  - ▼収集運搬車両のエコドライブを実践し、CO<sub>2</sub>排出の低減に努めます
  - ▼こまめに電気を消し、必要以上の電力を使用しない様、省電力に努めます
2. 廃棄物のリサイクル率の向上に努めます
3. 地域社会貢献活動をします
4. 環境関連法規を遵守します
5. 廃棄物の処理業務を行う上で、周辺環境の保全に努めます
6. 従業員の環境教育を行います
7. 環境経営システムの継続的改善に努めます

平成 19 年 4 月 2 日制定

平成 26 年 9 月 1 日改訂

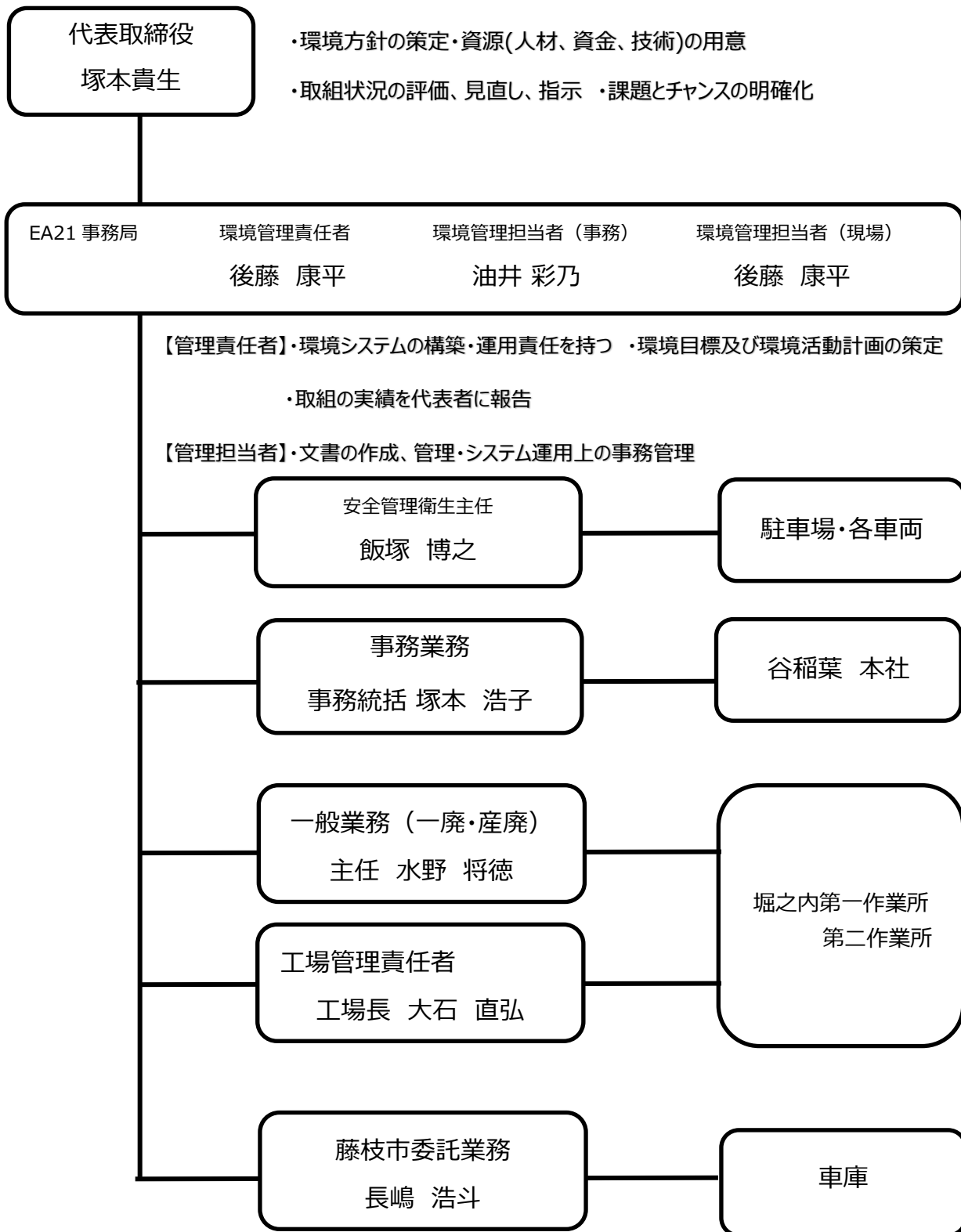
令和 5 年 10 月 16 日改定

有限会社塚本興業

代表取締役 塚本貴生

当社のエコアクション 21 の対象範囲：全組織・全従業員

有限会社塚本興業 組織図



## 組織の概要

### 会社名および代表者名

有限会社 塚本興業

代表取締役 塚本貴生

### 環境管理責任者

環境管理責任者名：後藤 康平

連絡先：tkeco21@cy.tnc.ne.jp



### 所在地



**本社**・・・〒426-0083 静岡県藤枝市谷稲葉 435 番地の 1

TEL : 054-644-1524 FAX : 054-668-9557



**堀之内第一作業所**・・・〒426-0088

静岡県藤枝市堀之内 1 丁目 1 番 13 号



**堀之内第二作業所**・・・〒426-0088

作業所：静岡県藤枝市堀之内 1 丁目 1 番 10

駐車場：静岡県藤枝市堀之内 1 丁目 1 番 11・12



**堆肥製造施設**・・・〒426-0131

静岡県藤枝市瀬戸ノ谷字山下 1304 番 2

## 事業内容

### ■ 一般廃棄物・産業廃棄物収集運搬業及び中間処理業

#### 会社の概要・事業規模の推移

事業開始：昭和 45 年 6 月 法人設立：昭和 61 年 9 月 資本金：700 万円

	単位	2020 年度 (令和 2 年 6 月～令和 3 年 5 月)	2021 年度 (令和 3 年 6 月～令和 4 年 5 月)	2022 年度 (令和 4 年 6 月～令和 5 年 5 月)
売上高	百万円	183.3	186.3	196.8
<b>運搬実績</b>				
藤枝市委託（家庭系）	t	9699.0	9427.4	9717.9
事業系一般廃棄物	t	734.0	785.1	1056.7
事業系一般可燃ゴミ	t	441.1	494.9	548.9
事業系一般不燃ゴミ	t	95.8	100.1	307.3
事業系一般古紙	t	197.0	190.1	200.5
産業廃棄物	t	106.7	43.5	54.9
廃プラスチック類	t	95.4	37.7	47.3
木くず	t	3.6	2.6	2.5
ガラス陶磁器くず	t	95.4	3.2	5.1
がれき類	t	0.0	0.0	0.0
動植物性残さ	t	0.0	0.0	0.0
<b>中間処理量</b>				
事業系一般廃棄物	t	46.3	20.3	21.5
圧縮梱包：ペットボトル	t	23.0	9.2	10.4
圧縮梱包：スチール缶	t	15.7	6.9	6.8
圧縮梱包：アルミ缶	t	7.6	4.2	4.3
産業廃棄物	t	37.0	35.5	30.7
圧縮梱包	t	37.0	34.8	30.7
破碎分離	t	0.0	0.0	0.0
肥料化	t	0.0	0.7	0.0
従業員数	人	28	27	26
車両台数	台	17	17	17

## 敷地及び床面積

		2020年度	2021年度	2022年度
本社	敷地面積	468.09	468.09	468.09
	床面積	304.89	304.89	304.89
谷稲葉駐車場	敷地面積	375	375	375
堀之内第一作業所	敷地面積	685	685	685
	床面積	243.67	243.67	243.67
堀之内第二作業所	敷地面積	693	693	693
	床面積	454.51	454.51	454.51
堀之内第二駐車場	敷地面積	1250	1250	1250
堆肥製造施設	敷地面積	196	196	196
	床面積	70.27	70.27	70.27

単位：m<sup>2</sup>

## 車両の概要

### 藤枝市委託業務 車両

- ① 5 t 塵芥車両 7 台
- ② 3 t 塵芥車両 1 台



### 一般・産業廃棄物許可業務 車両

- ① 3 t 塵芥車車両 3 台
- ② 2 t キャブオーバー1 台
- ③ 4 t 脱着装置付コンテナ専用車両 1 台
- ④ 350 k g バン 1 台
- ⑤ 350 k g キャブオーバー1 台
- ⑥ 3350 k g バン 1 台
- ⑦ 2000 kg バン 1 台



## 許可内容

### 一般廃棄物収集運搬の許可内容

許可範囲	許可番号	有効期限	許可年月日
藤枝市	藤生環指第 1-10 号	令和 6 年 3 月 31 日	令和 4 年 4 月 1 日
焼津市	第 44-10 号	令和 6 年 7 月 25 日	令和 4 年 7 月 26 日
島田市	島地環 250 号	令和 7 年 2 月 28 日	令和 5 年 3 月 1 日
静岡市	第 10214 号	令和 7 年 3 月 31 日	令和 5 年 4 月 1 日
吉田町	第 4-2 号	令和 6 年 5 月 30 日	令和 4 年 5 月 31 日
川根本町	川本く環第 66 号	令和 6 年 5 月 14 日	令和 4 年 5 月 15 日

※静岡市一般廃棄物収集運搬業務の内容は特定廃家電 4 品目の指定場所への積み降ろしに限る

### 事業系一般廃棄物中間処理業の範囲

許可範囲	許可番号	有効期限	許可年月日
藤枝市	藤生環指第 2-(2)号	令和 6 年 3 月 31 日	令和 4 年 4 月 1 日
	圧縮・梱包・結束処理・破碎分離（廃プラスチック類/アルミ缶/鉄缶/ペットボトル/動植物性残さ（生ごみ））、肥料化処分		

### 産業廃棄物収集運搬の範囲

許可範囲	許可番号	有効期限	許可年月日
静岡県	第 022011116606 号	令和 7 年 3 月 2 日	令和 2 年 3 月 3 日
	※廃プラスチック類・金属くず・※ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず・※がれき類・汚泥・廃油・廃酸・紙くず・木くず・繊維くず・動植物性残さ 以上 11 品目 （※石綿含有廃棄物を除く）		

### 産業廃棄物中間処理の範囲

許可範囲	許可番号	有効期限	許可年月日
静岡県	第 022211116606 号	令和 6 年 11 月 1 日	令和元年 11 月 2 日
中間処理	破碎分離処分→廃プラスチック類・金属くず・廃酸・動植物性残さ		
	圧縮梱包処分→廃プラスチック類・紙くず・繊維くず		
	肥料製造処分→廃酸・動植物性残さ		



## 処理施設概要

### 中間処理能力

施設名	種類	処理能力
圧縮梱包施設	廃プラスチック類	0.56 t/日 (8.0 時間)
	紙くず	0.64 t/日 (8.0 時間)
	繊維くず	0.53 t/日 (8.0 時間)
破碎分離施設	廃プラスチック類	0.16 t/日 (8.0 時間)
	金属くず	0.16 t/日 (8.0 時間)
	廃酸	3.04 t/日 (8.0 時間)
	動植物性残さ	3.04 t/日 (8.0 時間)
肥料製造施設	廃酸	0.10 m <sup>3</sup> /日 (24.0 時間)
	動植物性残さ	0.98 m <sup>3</sup> /日 (24.0 時間)

肥料製造施設



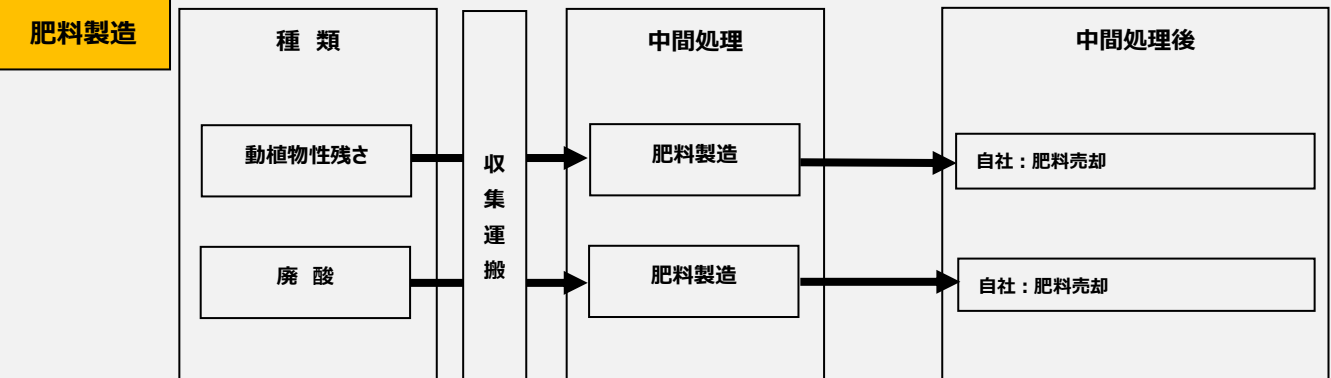
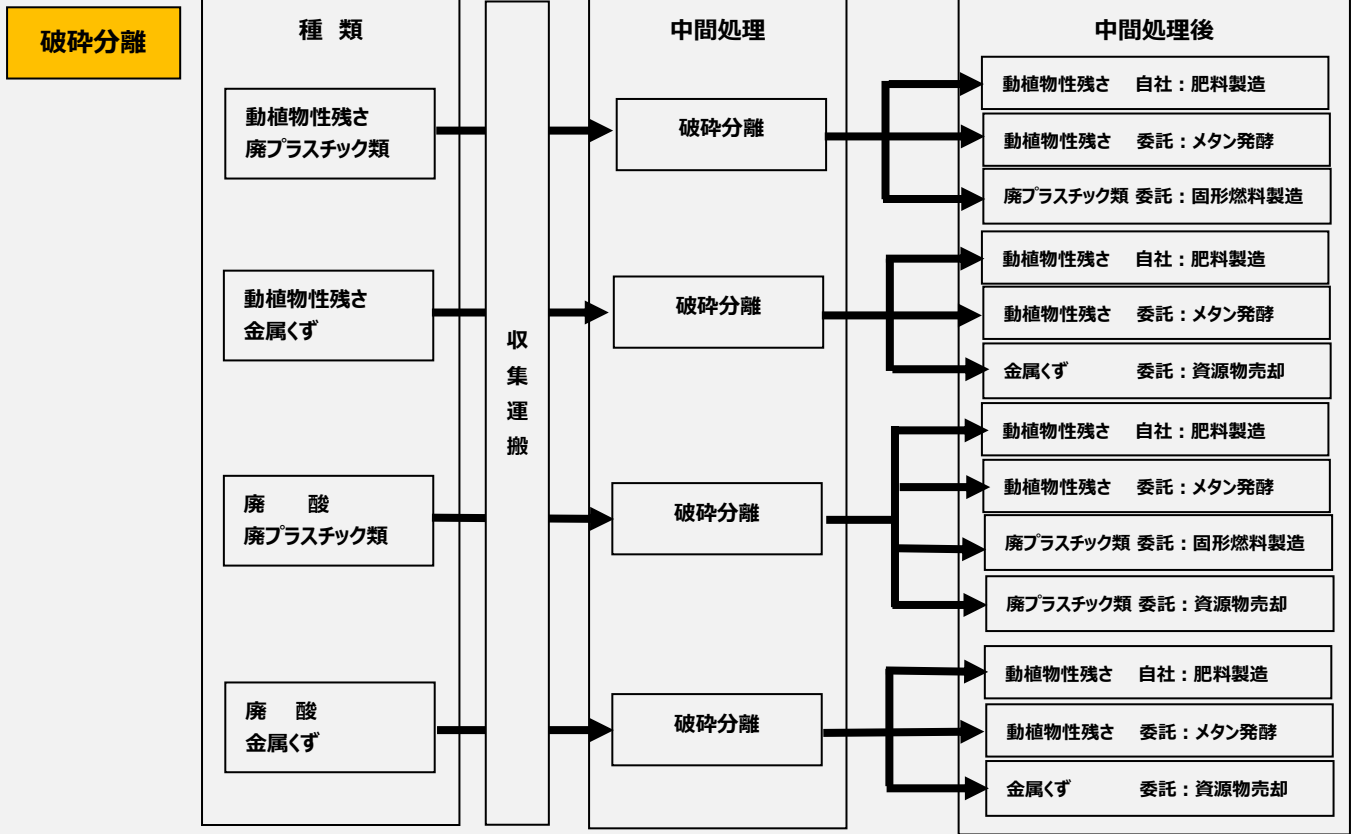
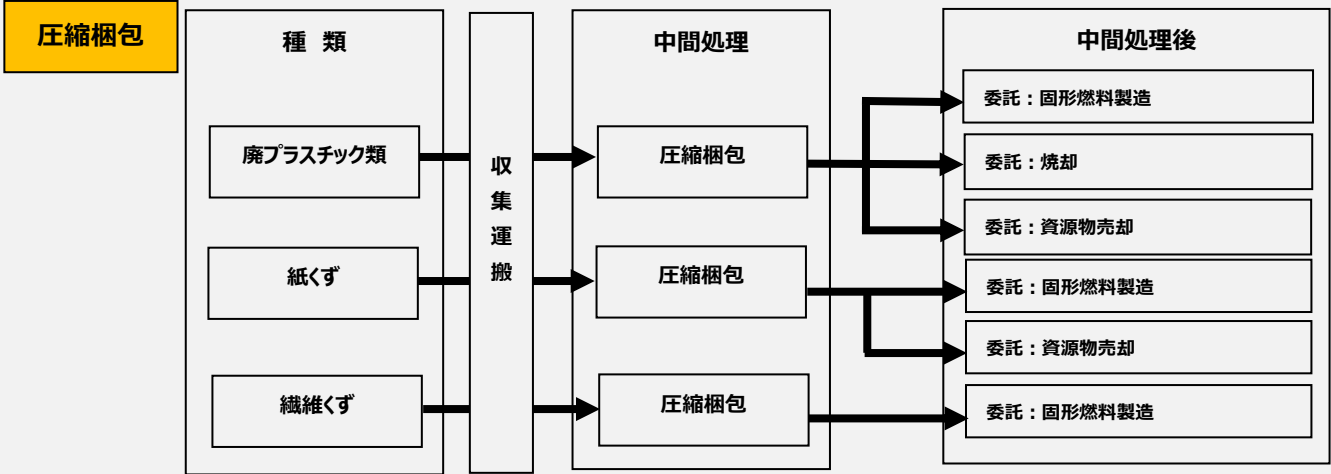
圧縮梱包施設



破碎分離施設



産業廃棄物処理フロー図



毎月第二水曜日に各部門責任者が集まり、EA21 推進委員会を開催  
業務上の課題及び問題点を題材にし、改善点などの意見をまとめて従業員全体にフィードバックする会議の実施。

エコアクション21における役割

【代表取締役】

- 環境方針の策定
- 資源・人・物・資金の調達
- 各責任者の任命
- 取り組み状況の評価と見直し

【環境管理責任者及び管理担当者】

- 外部からの苦情処理
- システムの構築と運用
- 社内教育の実施
- 環境関連整備行事の企画

【事務部門 事務統括】

- 外部からの苦情受付
- EA21 に係るデータ書類作成
- 自社ごみの分別
- EA21 推進委員会の司会進行

【藤枝市委託部門 作業長】

- 藤枝市ごみ収集の苦情受付及び対応
- エコドライブ・エコ作業
- 回収ルートの見直し等の業務効率化

【一般業務部門 主任】

- 事業所からの苦情の受付及び対応
- エコドライブ・リサイクル
- 回収ルートの見直し等の業務効率化

【安全運転管理者】

- 防災関連行事の提案と企画
- 安管総会への出席および従業員への指導

環境整備活動 奉仕作業の実施



エコドライブ・安全運転ランキング掲示の実施

エコ・安全運転ランキング ページ 1/5  
印刷日時: 2020/11/19 15:57

評価期間	2020/05/01～2020/05/31		2020年11月19日 20時27分 に実施した集計結果を元に表示しています。集計結果は緑に囲み込んだ運行情報は赤いままです。		1台～100台まで		0台～100台まで		ベスト			
部署名	標本集計表											
種別	評価項目	スコア	達成率	スコア	達成率	走行距離 (km)	燃費効率 (km/l)	燃費効率 (km/l)	燃費効率 (km/l)	燃費効率 (km/l)	燃費効率 (km/l)	
												燃費効率 (km/l)
一般業務 (平均燃費評価: 94)												
1	燃料費削減	100	A	0	87.8	6.6	20	50	2020/05/13 13:16	25.8	2201.5	5814
	燃費効率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燃費効率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市営社 (平均燃費評価: 95)												
1	燃費効率	100	A	0	90.8	198.2	208	86	2020/05/13 13:16	42.4	32814.9	148864
	燃費効率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燃費効率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般業務 (平均燃費評価: 95)												
1	燃費効率	100	A	0	88.5	481.2	1818	73	2020/05/13 13:16	29.3	48816.3	20046
	燃費効率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燃費効率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	燃費効率	100	A	0	88.0	418.0	1997	66	2020/05/13 13:16	29.5	11798.9	48474
	燃費効率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	燃費効率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

社員講師の社内教育の実施



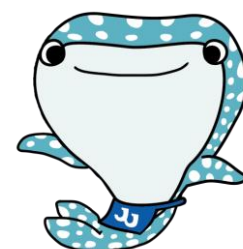
新中長期環境目標（基準年 2019・2020 年度平均）

		単位	基準数値 2019・2020 年度平均値	2021 年度 目標	2022 年度 目標	2023 年度 目標
温室効果ガス排出量		kg-Co2	129721	-1% 128423.8	-1.5% 127775.2	-2% 127126.6
化石燃料の使用量	軽油	ℓ	47044.5	-1% 46574.1	-1.5% 46338.8	-2% 46103.6
	灯油	ℓ	248.3	-1% 245.8	-1.5% 244.6	-2% 243.3
	ガソリン	ℓ	828.1	-1% 820.0	-1.5% 816.0	-2% 811.5
購入電力		k w h	16033	-1% 15872.7	-1.5% 15792.5	-2% 15712.3
自社オフィス排出廃棄物量		kg	238	-1% 235.6	-1.5% 234.4	-2% 233.2
水使用量		m <sup>3</sup>	188.5	-1% 186.6	-1.5% 185.7	-2% 184.7
産業廃棄物のリサイクル率 ※産業廃棄物のリサイクル率（＝中間処理後のリサイクル量÷中間処理合計）は、処理量を考慮し、現状維持とする		%	100	維持 100	維持 100	維持 100
グリーン購入（事務用品）		%	100	維持 100	維持 100	維持 100

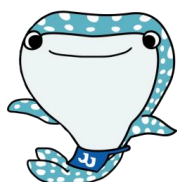
※温室効果ガス排出係数の算出に用いた電力排出係数は 0.482 kg-CO<sub>2</sub> を使用

環境への負荷の状況

		単位	2022 年度 (令和 4 年 6 月～令和 5 年 5 月)
<b>3.総エネルギー投入量</b>	購入電力	kWh	14199
	軽油	ℓ	48060
	灯油	ℓ	181
	ガソリン	ℓ	2917
<b>7.水資源投入量</b>	上水	m <sup>3</sup>	195
	雨水	m <sup>3</sup>	72
<b>3.温室効果ガス排出量</b>	二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	138055.69
<b>4.受託した一般廃棄物の運搬</b>	収集運搬量（事業系）	t	1056.7
	収集運搬量（家庭系）	t	9717.9
<b>4.受託した産業廃棄物の運搬</b>	収集運搬量	t	54.9
<b>4.受託した産業廃棄物の中間処理</b>	廃プラスチック類	t	30.7
	動植物性残さ	t	0
<b>5.一般廃棄物総排出量 (自社オフィス排出廃棄物量)</b>	再生利用	Kg	259
	単純焼却	Kg	257.0
<b>総排水量</b>	公共用水域	m <sup>3</sup>	72
	下水道	m <sup>3</sup>	195



環境目標	実施項目	責任者	評価
省エネルギー活動	洗車・運搬容器洗浄・洗濯機（堀之内倉庫）にはすべて雨水使用	大石直弘	○
	エアコンの温度設定	油井彩乃	○
	節電の為に工夫、実行	油井彩乃	○
	エコドライブの徹底	後藤康平	△
	藤枝市委託業回収ルートの見直し・効率化	大石直弘	△
	一般業務回収ルートの見直し・効率化	水野将徳	△
	事務所の不要照明の消灯（節電の徹底）	油井彩乃	○
廃棄物のリサイクル率向上	排出事業所への分別指導	水野将徳	○
	コピー用紙の裏面使用の徹底	油井彩乃	○
	廃棄物排出量の削減（自社の分別の徹底）	油井彩乃	○
	エコキャップ活動	油井彩乃	○
	産業廃棄物のリサイクルに務める（処分業者の選定）	水野将徳	○
	一般廃棄物のリサイクル業者との提携	塚本貴生	○
	マルシェを活用したりユース事業の推進	水野将徳	○
地域社会貢献活動	もったいない運動推進募金（自動販売機）と集計	油井彩乃	○
	地域清掃活動	後藤康平	○
環境関連法規の遵守	積載量・制限速度の厳守	飯塚博之	○
	従業員への教育（朝礼・回覧）	後藤康平	○
	車両点検・点検表の保管（3年間）道路運送車両法	大石直弘	○
	毎朝の免許証・呼気アルコール濃度チェックの実施	長嶋・戸神	○
	廃棄物中間処分施設の適正管理（施設点検）	大石直弘	○
	産業廃棄物に関するセミナー	伊藤・後藤	○
	労働安全衛生法第45条に基づくフォークリフト検査	塚本貴生	○
	安全運転管理協会講演会	飯塚博之	○
	産業廃棄物処分施設への見学	塚本貴生	○
	志太広域事務組合 高柳清掃工場優良認定の取得	塚本貴生	○
周辺環境の保全	廃棄物中間処分施設の適正管理（施設点検）	大石直弘	○
社員の教育環境	グリーン購入	油井彩乃	○
	電子マニフェスト管理	飯塚 泉	○
	環境上の緊急事態への準備及び対応の確認	後藤康平	○
	車両火災時の訓練	後藤康平	○
	BCP(事業継続計画)の策定	塚本浩子	○
	事業継続力強化計画の確定	塚本浩子	○



**温室効果ガス排出量**

基準値 2019・2020 年度平均値	目標 -1.5%	目標数 値 127775	実績値 2022 年度 138055	評価 ×
129721	-1.5%	127775	138055	×

単位：k g-CO2



※温室効果ガス排出係数の算出に用いた電力排出係数は 0.482kg-CO2 を使用

分析・評価・次年度への課題

**【分析】**

去年、化石燃料の使用量に対する CO2 排出量が全体の 92%を占めていたが今年は 95%(軽油 90%・レギュラー 5%)だった。購入電力を見ても購入量が減っている事から、ガソリンの割合が増えたと思われる。

**【評価】**

電力は目標を達成できているが、化石燃料の数値がいずれとして多い傾向で目標が未達成に終わった。

いずれとして軽油の使用量が多い為、温室効果ガスの排出量を減らす為には、レギュラー車の使用割合も増やしていかなければならない。

**【次年度への課題】**

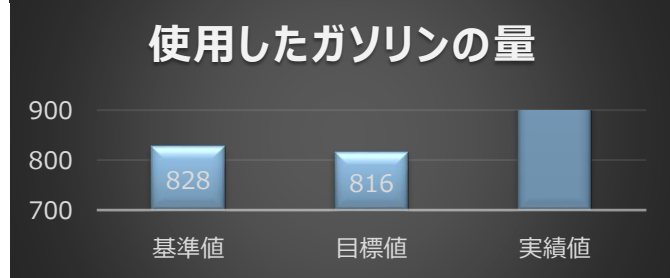
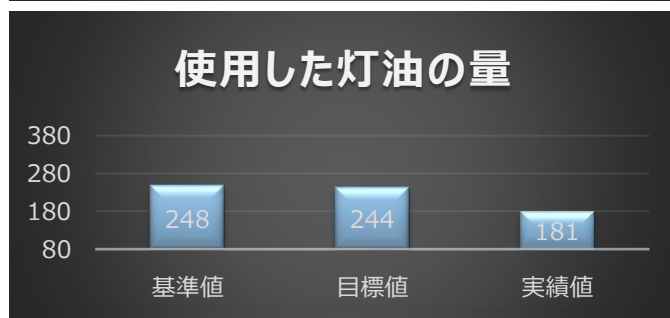
電力の方では減らすことに関しては、取れる対策に限界が近づいている為、今後軽油の使用量をどれだけ減らせるかがカギになると予想される。買い替えるタイミングでレギュラー車の導入や作業内容によっては、レギュラー車の使用頻度の見直しの検討が必要と思われる。

業務上、ガソリンの使用は必須な為、使用量を減らすこともだが、移動ルートの高率化や作業効率をあげ、エンジンがかかっている時間を短くする努力も必要と思われる。

## 化石燃料の使用量

	基準値 2019・2020年度 平均値	目標 -1.5%	目標数 値 46338	実績値 2022年 度 48060	評価
軽油	47044	-1.5%	46338	48060	×
灯油	248	-1.5%	244	181	○
ガソリン	828	-1.5%	816	2917	×

単位：L



## 環境目標と実績評価

評価凡例：目標達成○ 目標未達成×

### 化石燃料の使用量

分析・評価・次年度への課題

#### 【分析】

委託業務は去年とさほど変わらないが、一般業務の方が、去年より走行距離が3%伸びたとは言え、軽油の使用量が10%、ガソリンの使用量が3倍以上に増加した。

お客様から回収依頼の電話を頂いた時に、回収物と量を事前に細かく聞くよう対応を取り、回収物が少ないと判断した時は、軽トラや軽自動車での回収頻度を増やした。事業拡大を目的として営業活動も前年以上に増え、ガソリン車の使用頻度が増やしたことから、急激にガソリンの使用量が増加したと思われる。

#### 【評価】

軽油・レギュラーの使用量だけ見れば増加が気になるが、回収量を比較すると不燃物が200t近く増えている。走行距離に大差がなく化石燃料の使用量が増えたことから、近場での回収件数が増え、細かい移動などが重なったこと、営業活動による移動のみの乗車が増えたことから、思うよう燃費が伸びず使用量が増えたと考えられる。市外からの依頼もあり、今後も事業拡大に伴っての増加も予想される為、今まで以上にルート最適化を図りたい。

次項につづく



### 【次年度への課題】

市や包括支援と何度か話し合いの場を用意して頂き、一人でゴミを出す事が困難な方達からゴミの回収や分別や手伝いを行う活動もするサービスを提供することになった。始まったばかりでまだ依頼者の数が少なく1日に1件2件の為の移動が多い。今後更なる力を入れて事業を拡大し、燃費やルートの効率化を図り、来年は使用量を減らす対策が必要となる

### 購入電力

基準値	目標	目標数値	実績値	評価
2019・ 2020年度 平均値			2022年度	
16033	-2.0%	15792	14199	○

単位：kwh



分析・評価・次年度への課題

### 【分析】

目標数値だけを見ると達成できているが、作業場の購入電力を見ると横ばいなので、作業場の消費量を減らす工夫が求められる。事務所だけを比較すると、昨年と比べ減少傾向で、10月～3月で5%～多い月で10%消費量を削減出来ている。

### 【評価】

事務所は、時間帯や、人が少ないとき、電気を消し温度調整も心掛けることを徹底し年間5%の削減に成功した。  
作業場の壁を遮熱塗料で塗装したので、今後作業場の消費電力も抑えられると見込まれる。

### 【次年度への課題】

作業場の外壁を遮熱塗料にすることで、作業場での作業が今までより快適になる事が予想される。例年温度が高くなってきているので、従業員の体調が第一なので、最低限の使用は仕方ないにしても、夏冬の季節の変わり目の使用量を減らせるのではと思うので、今後は作業場も使用量を控え購入量を抑えていきたい。

**自社オフィス排出廃棄物量**

基準値	目標	目標数値	実績値	評価
2019・2020 年度平均値			2022 年度	
238	-2.0%	234	259	×

単位：kg



分析・評価・次年度への課題

**【分析】**

前年と比較すると、廃棄量が極端に増えているという事はないが、基準年度と比較すると、マルシェや新たなサービスを始める為の資料や広告が増えたことによる排出ゴミも増えたことが要因と考える。

**【評価】**

排出量は依然として多いが、基準年と比較しても再生利用率は高い。去年も今年も再生利用率 50%を越えている。本年排出量 257kg は目標未達成ではあるが、分別意識は高い。

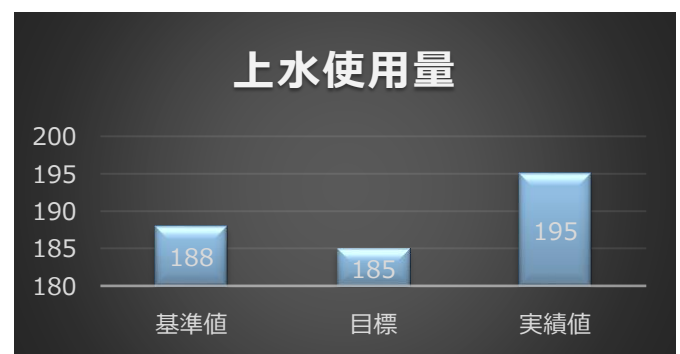
**【次年度への課題】**

分別意識は高いが、単純焼却分のゴミの量も増えている。再生利用分を増やすことも大事だが、ゴミの分別を今まで以上に徹底するとともに、ゴミ全体の排出量を減らしていく工夫を考えていかなければならない。

**上水使用量**

基準値	目標	目標数値	実績値	評価
2019・2020 年度平均値			2022 年度	
188	-2.0	185	195	×

単位：m<sup>3</sup>



分析・評価・次年度への課題

**【分析】**

目標としては達成できなかったものの、去年より水に使用量が減り、雨水の使用量が増えたことから、社員が節水を意識し始めたと思われる。

**【評価】**

前年と比較すると、ほぼ全ての月で事務所・作業場の水の使用量が減らせていた。堀之内第二が2~3月異常に水の使用量が増えていた。理由としては、作業場の洗浄をしたことにより、汚れを落とすために、高圧洗浄機を使うが、使用時間が長かったことが要因と思われる。

次項に続く

### 【次年度への課題】

時間がある時に清掃活動をするのではなく、計画的に汚れが目立つ前に清掃をすることで、水の使用量が抑えられると思われるので、汚れてからではなく、汚れる前に清掃をすることで水の使用量を減らせたと思われる。

### 産業廃棄物リサイクル率

基準値 2019・2020年 年度平均値	目標 目標数値	実績値 2022年度	評価
100	±0%	100	○

単位：%



### 分析・評価・次年度への課題

#### 【分析】

産業廃棄物の取扱量が少なく、継続的に取引している顧客が多く、顧客ごとに廃棄物の種類や処分方法などの流れがパターン化され、決められた形で収集運搬・処分を行える環境が出来ている事から、リサイクル率の維持が出来ていると考える。

#### 【評価】

排出前に複合素材などを分別してもらう事により混合廃棄物や単純焼却物になる廃棄物を単一素材としてサーマルリサイクル向けの物として受け取り可能な状態として排出してもらうように分別指導をしており、受入れが難しいものに関しては、処分先の紹介や直接処分先へ運搬するなど廃棄物がシンプルに流れるように努めている結果だと考える。

### 【次年度への課題】

現状サーマルリサイクルに向けに処分委託しているが、今後の課題として原料向けなど様々な資源化に対応できるように委託先を選定する。

### グリーン購入(事務用品)

基準値 2019・2020 年度平均値	目標 目標数値	実績値 2022年度	評価
100	±0%	100	○

単位：%



### 分析・評価・次年度への課題

#### 【分析】

例年通りの注文時は、Eco マーク・グリーン購入を確認し注文できている。

#### 【評価】

意図的に再生原料を使用した製品が購入できている。今後も引き続き維持する。

【次年度への課題】社会的に求められる重要な項目となる事が予想される為、今後もグリーン購入対象商品の幅を広げていく。

環境関連法規等の取りまとめ

適用対象	適用事項	評価
廃棄物の処理及び 清掃に関する法律	産業廃棄物収集運搬業・処分業許可の届出・更新	○
	委託契約書・管理票の5年間保存	○
	産業廃棄物排出者への管理表写しの送付（10日以内）	○
	産業廃棄物の帳簿作成・5年間保存	○
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書提出	○
	産業廃棄物保管場所における種類等の表示	○
	水銀使用製品廃棄物の分別の徹底と法令順守	○
静岡県産業廃棄物の 適正な処理に関する条例	第10条 処分を委託した業者の現地確認	○
	第12条-第16条 産業廃棄物の運搬において越境しない	
	第17条 受託産業廃棄物の処理状況の報告（毎年度6月）	
家電リサイクル法	家電リサイクル券の発行	○
食品リサイクル法	食品残さの収集運搬・堆肥化	○
道路交通法	出勤時、作業終了時の免許証携帯・出退勤時の呼気アルコール濃度のチェック	○
	運転中の携帯電話使用禁止	○
	過積載の禁止	○
	毎朝の車両点検・整備 書類保管	○
道路法	道路網の整備・管理・保全に関する法令遵守	○
	藤枝市委託業務における通行禁止区間除外指定車の申請	
肥料取締法	食品リサイクル肥料認証書の取得	○
浄化槽法	業者による浄化槽の保守点検 11条検査	○
悪臭防止法	悪臭基準（藤枝市15）の遵守	○
自動車リサイクル法	リサイクル料金の支払い・書類保管	○
下水道法	堀之内作業所における下水道に関する法令遵守	○
グリーン購入法	環境物品を積極的に購入	○
循環型社会形成推進基本法	3Rの実行	○
フロン排出抑制法	エアコンの簡易点検の実施 1回/3ヶ月 点検表作成	○
プラスチック資源循環促進法	製品プラスチックの再資源化	○

当事業所に適応される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

また関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟も過去5年間ありませんでした。

遵守確認日 令和5年5月末日

## PLAN（計画）

- 1.産業廃棄物の資源化率の維持と、一般廃棄物の単純焼却分の減量、及びリユースによるリサイクル率の向上
- 2.無理のない節水・節電の推奨によるエネルギーコストの削減
- 3.地域のゴミの減量化・堆肥化
- 4.効率の良いルートを選定・エコドライブの推奨

## DO（計画の実施）

- 1.排出事業者への分別指導及び一般家庭の不用品をリユース販売する機会の創出や分別方法のアドバイス
- 2.節水において、雨水を使用する用途を広げ、利用促進

節電において、作業者が少ない場所や、時間帯によっては、重点的に使用量を削減する。

- 3.残渣回収許可の取得。地域の給食センターで切り落とされる部分や残菜をゴミとしての回収量を減らす為、廃棄される部分を譲ってもらい形で堆肥を作り、市のゴミの処分量を減少させて頂いています。週／約 250kg(月／約 1000kg・年／約 10000kg)。藤枝市のゴミの排出量は 684 g / 人日
- 4.市の回収では 2 人乗車が基本となるが、パートナーを定期的に変える。一般の回収も定期的に作業者を替える事により、運転方法やルート選定を見直し、定期的に話し合いを行い、ルートや作業の効率化を図る。

## CHECK（確認・評価）

- 1.産業廃棄物においては、複合素材を排出する事業者を中心に事前分別をお願いし、リサイクルしやすい形で排出してもらうよう協力を促せた事が高リサイクル率の維持につながった。  
一般廃棄物においては、不用品 = 廃棄というサイクルを見直し、マルシェを実施し不用品の利活用の訴求ができた。一定数の利用者やマルシェにおいてもリピーターの方が増えてきたので、廃棄物にしない取組みが進んでいると評価できる。また、片付けに伺ったときに、リサイクル業者を紹介することにより、買取のかたちでリユースを進める事、ゴミの排出量を減らす機会を作っている。
- 2.節水において、雨水の使用量が増えて、ほとんどの月で水の使用量が減ったことから、意識改革の表れが見られた。  
節電において、時間帯においてや、作業人数により冷暖房器具の見直しの結果、成果が大きくみられた。
- 3.ゴミの減量化の観点から、給食センターの残さの堆肥化を新たな取組みを始める事にした。始めたばかりの為、推測部分のデータもあるが、ゴミの排出量を一定数減らす見込みはあると思われる。残さを堆肥化して、その堆肥を利用して野菜を作り、地域の小学校や介護施設の方たちと、植え付け・収穫体験をして地域貢献するとともに、廃棄問題についての大切さを教える事が出来ればと思います。
- 4.温室効果ガス排出量の削減には繋がらなかったが、後輩社員を、先輩社員の横に乗車させ、運転方法の見直しやルートの選定を学習させる機会を創出できた。

## ACTION（改善）

- 1.産業廃棄物においては、処理場からの要請が年々厳しくなり、排出事業者の協力が欠かせない状況は変わらない。  
今後は排出事業者の負担も増える事が予想される為、廃棄物が捨てやすい環境を用意する取り組みも必要になってくる。  
一般廃棄物においては、マルシェというリユースの受け皿が形となったので、継続と存続を認知してもらう活動が必要になってくる。  
来場者が増えている事や、リピーターも一定数いる事から、需要があることが予想される。世界的なゴミ問題の観点からも、ゴミの減量・リサイクル率の向上の観点からも、定期的にマルシェを開催したいと思う。

事項につく

- 2.節水・節電においては一定の効果が感じられた。作業場の壁を遮熱塗料にしたことにより、次年度は更なる節電が期待できる。
- 3.始めたばかりのプロジェクトの為、問題点や、改善点がわからないのが現状であるが、継続的に進めていくとともに、地域貢献作業を行いつつ、子供達にも、育てる大変さ・フードロス問題を知る、きっかけを用意できればと思う。
- 4.若手社員がセルフチェックを行ういい機会を用意できた。安全管理の意識を改めて、作業のミスをなくすとともに、運転技術向上、今後の温室効果ガス排出削減に繋がる仕組みとして期待できる。

7つの文章	Check	見直し必要性	8つの記録	Check
1.環境方針	○	無	1.環境への負荷の自己チェック	○
2.環境目標	○	無	2.環境への取り組みの自己チェック	○
3.環境活動計画	○	無	3.環境関連法規の遵守状況結果	○
4.環境関連法規の取りまとめ	○	無	4.外部からの苦情等の受付結果	○
5.実施体制	○	無	5.環境上の緊急事態の訓練結果	○
6.緊急事態の想定及び対応策	○	-	6.目標達成・計画実施状況	○
7.環境活動レポート	○	-	7.問題点の改善及び予防の処置	○
			8.代表者による評価の見直し	○

令和5年9月18日

有限会社塚本興業

代表取締役 塚本 貴生

